



町民待望の発信拠点 邑楽町中央公民館が開館しました

邑楽町 教育委員会 生涯学習課

町民の長年の念願であったホールを備えた中央公民館が、平成30年9月1日、いよいよ開館しました。

中央公民館は、これまで整備が進められてきた中央公園構想の最後の1コマとして、単なる公民館機能の整備だけにとどまらず、区域全体の機能をより向上させると共に、多くの町民が集い交流し学ぶ場所として、憩いと喜びのある施設を目指しています。また、芸術・文化を核にしたまちづくりの拠点・発信基地としての役割も期待されます。



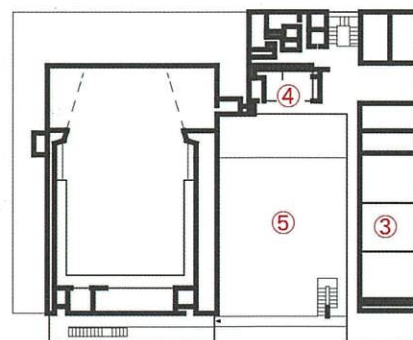
中央公民館では、文化発信の可能性を最大限広げられるよう設計段階から様々な工夫が取り入れられました。

公民館部分の特徴は、天候に左右されない活動空間の確保にあります。半屋外空間として、ピロティ(①)、膜屋根の軒下(②)を設け活動空間とすることで、台風21号の影響で不安定な天候の中、9月1日の式典当日も安心してイベントを進行することができました。

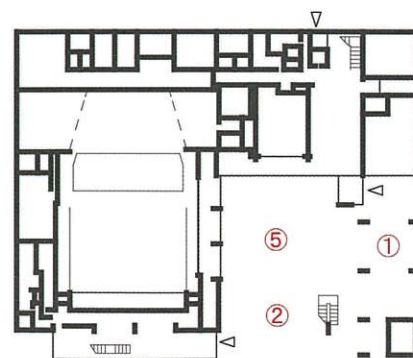
そのほか、可動壁により規模が可変する会議室(③)、創作テラス、2階ロビーと一体利用が可能な和室(④)、ホール、創作テラス、ピロティとの連携利用が可能な中庭(⑤)、回遊性のある動線計画、屋内各所に設けられたピクチャーレール等、利用者の活動・発信意欲を誘発する仕掛けが随所にちりばめられています。

ホール部分の基本構成は、昇降迫り、可動する音響反射板、移動観覧席となっており、舞台形式、客席の座席構成は各々最低5パターンに変化させることができます。

さらに、ホール空間の側壁は可動式の遮音間仕切壁となっており、静音空間が確保されたホール空間(次ページ⑥)から中庭と一体利用ができる開放的な平土間空間(次ページ⑦)までホール空間の様々な表情を楽しむことができます。



2階



1階





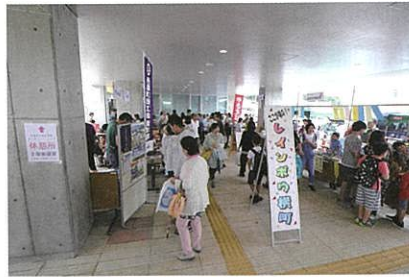
また、ホール空間では客席から舞台、バックステージまで車いすで移動できるようフラットな床面を確保、移動観覧席最前席をスタッキングチェアとすることで観覧場所が限定されない車いす席を確保、県内では2例目となるヒアリングループを設置するなど、バリアフリーも配慮しました。

演者側への配慮として、複数の管理扉を設置することによりバックステージ空間の規模を可変できます。

音響性能についても、オープニングイベントを終えたアーティストや来場者から絶賛の声が寄せられています。

9月1日、2日に行われた開館記念式典及びオープニングイベントでは2日間で延べ5,500名の来場があり、公民館の屋内外が大変な活気に包まれました。公募により選ばれ、「邑の森(むらのもり)」と名付けられたホールでは、邑楽町ゆかりのアーティスト7組による共演が行われると同時に、中庭の特設ステージでは10組を超えるアーティストによるパフォーマンスが行われました。

この中央公民館が町民はもとより、多くの利用者、表現者の皆様に長く愛され、ご活用いただけることを願ってやみません。



邑楽町中央公民館の詳細についてはホームページをご覧ください。 <http://orachuko.ec-net.jp/>

